

第3学年1組 算数科学習指導案

令和7年6月5日(木) 第3時限 場所 3年1組教室

1 単元 表とグラフ

(1) 目標

- ①身の回りの事象について、表やグラフを用いて分類・整理する仕方を理解し、表やグラフから読み取ったりつくったりすることができる。(知識・技能)
- ②目的に応じて、表の項目や棒グラフの目盛りのつけ方を適切に判断したり、表や棒グラフからの事象の特徴を説明したりすることができる。(思考・判断・表現)
- ③身の回りの事象を分類・整理することに進んで関わり、振り返りを通して表や棒グラフを目的に合わせて工夫することの必要性やそのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

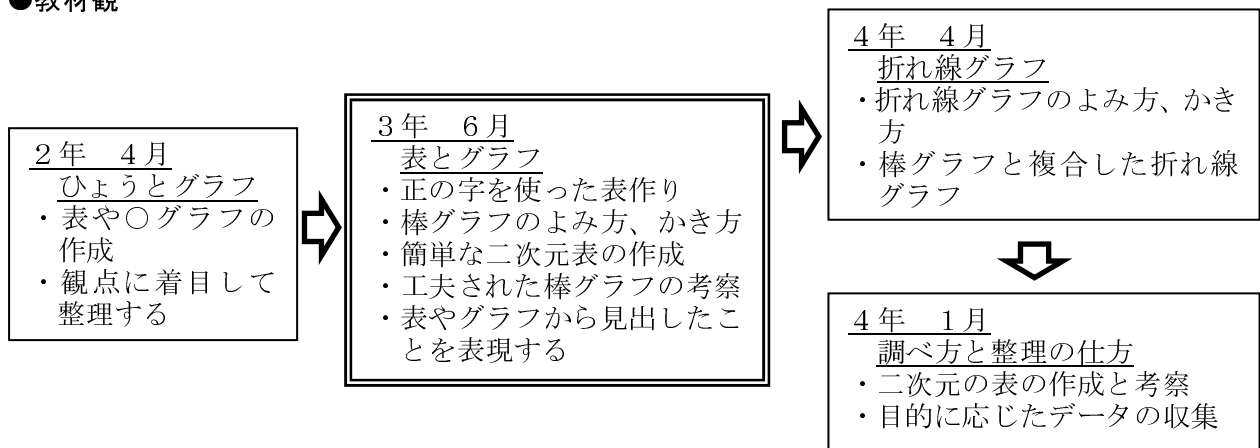
(2) 構想

●児童観

児童は、第2学年の「ひょうとグラフ」で、身の回りにある数量を分類整理し、観点が1つの表を用いて表したり、○などを並べて簡単なグラフに表したりして、事象について考察することを学習してきている。

事前のアンケート調査では、算数が好きな児童は79%であったが、第2学年で学習する「ひょうとグラフ」が好きな児童は93%であった。算数が好きでない児童も、表とグラフの学習には好意的である。また、算数が役に立つと考える児童は100%であったが、「ひょうとグラフ」の学習が役に立つと考える児童は85%であり、表とグラフの学習が日常生活に生かされていないと考える児童が若干いることが分かった。

●教材観



●指導観

本単元は、身の回りの事象について、表や棒グラフを用いたデータの分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりする。そして、統計的に問題解決する素地を育むとともに、その方法を生活や学習に活用しようとする態度を養うことが主なねらいである。

まず、児童の興味関心を引き出すために、第1時では、学級レクリエーションの遊びを決めるための「好きな遊び調べ」の活動を設定する。これにより、児童が学習を自分事として捉えやすくし、表や棒グラフを用いる必要性を実感できるようにする。また、数を「正」の字で表すことのよさを理解できるように、データを整理する方法を試す時間を確保する。そして、第2時では、2年生との学習のつながりを意識しながら、児童が親しんできた「○を並べたグラフ」の表し方を発展させ、棒グラフを作成する活動を取り入れる。第5時では、1目盛りが1では棒がはみ出してしまう場面の表し方について考える場面を設定する。そして、自分で目盛りを設定しながらその理由を説明し、最適な目盛りの大きさについて話し合いを行うことで児童の主体的で協働的な学びとなるようにしたい。教師は、児童の発言を板書しながら重要なポイントを可視化し、児童の思考を深める働きかけをする。2つの棒グラフの比べ方を考える場面では、目的にあった目盛りのつけ方をする前と後の2つの棒グラフを提示することで、1目盛りの大きさをそろえることのよさを感じられるようにしたい。

このように、問題解決をしていくことを通して、本単元のねらいに迫ることを目指す。

(3) 指導計画 (全9時間扱い)

段階	時	児童の活動	教師の活動
つかむ	1	<p>人数を正しく整理して、表をつくらう</p> <p>○好きな遊び調べの場面から、表やグラフを使って整理するという単元の課題をつかむ。</p> <p>○数を「正」の字で表し、簡単な表に整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として捉えられるように、事前に好きな遊びについてアンケートを取り、その結果を本時の学習に使用する。 ・正の字で表すことのように気づきやすいように、正確に数えるよい方法を試す時間を十分に確保する。
	<p>表やグラフを使って、分かりやすく整理する仕方を考えよう</p>		
取り組む	2	<p>棒グラフについて調べよう</p> <p>○棒グラフの意味を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の大きさを棒の長さで表すことの意味が理解できるように、2年生で学習した●グラフの上に、■を重ねていく。 ・視覚的に理解できるように、棒グラフのかき方を動画で提示する。
	3	<p>棒グラフのかき方を調べよう</p> <p>○1目盛りが1の棒グラフをかく。</p>	
	4	<p>調べたことを分かりやすく表そう</p> <p>○数の多い順に並べたり、数の少ないものをまとめたりして、表や棒グラフに整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その他で表すことのように、その他を使ったグラフと使わないグラフを比較できるように提示する。 ・曜日のように順序が決まっているときは、並び替えない方がよいこともあることを伝える。
	5	<p>1目盛りの大きさを考えて、棒グラフをかこう (本時5/9)</p> <p>○1目盛りが1でない棒グラフのかき方を考え、正しくかく。</p>	
	6	<p>2つの棒グラフの比べ方を考えよう</p> <p>○目盛りのつけ方が異なる2つのグラフを比較する。</p> <p>○目的にあった目盛りのつけ方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1目盛りの大きさをそろえることのように、目的にあった目盛りのつけ方をする前と後の2つの棒グラフを提示する。
	7	<p>2つの表を分かりやすく整理しよう</p> <p>○一次元の表を組み合わせた二次元の表の見方について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元の表を理解しやすいように、一次元の表を切ったり重ねたりするよう促す。また、「表のこの数は何を表しているかな」と問いかける。 ・凡例について説明する。 ・グラフを考察したり、見出したことを表現したりする力を高めるため、図書室に増やす本の種類は何がよいと思うか問いかける。
	8	<p>棒グラフの工夫を読み取ろう</p> <p>○複数の棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。</p>	
	振り返る	9	<p>表とグラフで学習したことを確かめよう</p> <p>○練習問題に取り組み、学習内容の理解を確認する。</p>

2 本時の学習指導（本時 5 / 9）

(1) 目標

データに合わせて、目盛りの大きさを考えて、棒グラフをかくことができる。

(思考・判断・表現)

(2) 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (4)	1 前時までの学習内容を振り返る。 ・縦の1目盛りが1つつを表していたよ。 2 問題文を読み、題意をつかむ。 ・あれ。棒グラフが上にはみ出してしまうよ。どうしたらいいのだろう。 ・1目盛りの大きさを変えればできそうだけど、いくつにすればいいのかな。 3 本時の学習課題を把握する。	・児童に問いかけながら、電子黒板に棒グラフをかく。 ・児童が問題解決の必要性を感じられるように、問題意識をもっている児童の発言を全体で取り上げる。 ・目盛りの大きさを変えればよいと気付いている児童を意図的に指名する。 ・本時の学習課題を板書する。 ・目盛りの大きさを決める際に、どんなことに気を付けるとよいかを書けたら花丸合格であると伝える。
課題 (2)		
展開 (30)	ぼうグラフの1目もりの大きさを、いくつにするとよいのだろう	
	4 <u>1目盛りの大きさを変えて、棒グラフをかき、その目盛りの大きさにした理由を書く。(丸自)</u> ・1目盛りが5だとはみ出してしまうよ。 ・1目盛りを100にするといいよ。間違いなく棒がはみ出ないからだよ。 ・1目盛りを20にするといいよ。20でも棒がはみ出ないよ。 ・1番大きい数が100だから、100を超えないように1目盛りを10にしたよ。 ・1目盛りを10にするといいと思うよ。ちょうどいい数だし、大小が分かりやすいからだよ。 5 1目盛りの大きさをいくつにすると最もよいか話し合う。 ・1目盛りを20にするとはみ出なかったから、20にするといいと思ったよ。 ・ちょうどいい数だから、1目盛りを10にするといいと思ったよ。 ・1番大きい数がはみ出ないようにするために、1目盛りが10より大きければいくつでもいいと思うよ。 ・確かに1目盛りが20でもはみ出ないけど、10の方が大小が分かりやすくて見やすい棒グラフになると思うよ。	発問「1目盛りの大きさを変えて棒グラフをかこう。また、その目盛りにした理由も書こう。(丸自)」 ・自分の考えがもてるように、児童の様子を見て十分な時間を確保する。 ・同じチームの児童の助けがあっても、自分の考えがもてない場合は、個別に1目盛りをいくつにしたいか尋ね、児童と一緒に棒グラフを作る。 ・早く棒グラフをかき終わった児童には、他の目盛りの大きさの棒グラフもかいてみるように伝える。 ・児童が考えた棒グラフを黒板に掲示する。 ・問題文を再度読み、「みくさんが見て分かりやすいように」という、棒グラフをかく目的を改めて確認し、話し合いの視点を明確にする。 ・児童の発表で同じ言葉が出てきたら、赤チョークで下線を引いて目立つようにする。 ・話し合いで多様な意見があまり出ない場合は、「1目盛りが20でもはみ出ないからよいのではないか。」「1目盛りが9の方が、もっと差が出てよいのではないか。」などと問いかけて児童の思考を揺さぶる。 ・1目盛りを10にするとよいことを、児童の発言した言葉を使って確認できるようにする。 ・棒グラフのかき方を電子黒板に映す。
終末 (9)	6 1目盛りが10の棒グラフをかく。 7 <u>棒グラフの1目盛りの大きさを決めるときに考えるとよいことをワークシートに書く。(花丸自)</u> ・1番大きい数がはみ出ないように1目盛りの大きさを決めるといいよ。 ・棒の長さのちがいが分かるように1目盛りの大きさを考えるといいよ。 ・見る人が分かりやすいように、ちょうどいい数にするといいよ。 8 練習問題を解く。	発問「棒グラフの1目盛りの大きさを決めるときは何を考えるとよいかな。」 ・本時の花丸合格を再度伝える。 ・板書の赤チョークで下線がたくさん引かれている言葉を参考に花丸自を書くように伝える。 ・本時の目標に迫ることのできている児童を意図的に指名し、児童の言葉をつないで、学級全体で学習のまとめをする。 ・なぜ、その目盛りの大きさにしたのか問いかける。

(3) 評価

読み取りやすく、数値の大小の差が分かりやすい棒グラフになるように考えながらかくことができたか。
(活動4、5、7の発言やワークシートへの記述から)

